

【速く〇〇には】



かなり前から気になっていたのですが、子どもたちが「**速く走ろう**」と思ったり、「**速く泳ごう**」と思ったりすると、この写真のように(Dr.スランプ アラレちゃんのように…かなり古し)腕を後ろに引いて、顔を前に突き出して、走ったり、泳いだりするんですね(先生方は、このあるあるに同感してくださる方、多数かと思うのですが)。

つい先日も、

Aくん「校長先生、足速くなったんだよ」

わたし「ではでは、走ってみて」と、リクエストしたときの走りがこの写真となります。

この動きは、泳ぎの時にも見られるんですね。バタ足ができるようになって、少し泳ぐ感覚がわかってきて、バタ足で競争をするよということ、この動きが出るんです。もちろん、伏し浮きとかを教えた後なので、私自身は、上半身はけのびの状態を期待するのですが、クラスに何人かは、腕を後ろに引いたこの姿勢でバタ足をするんですね。

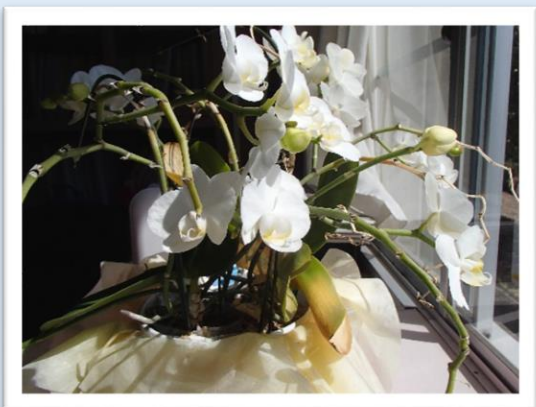
久々にこの動きを見たので、「**どうして速く〇〇しようとするときのような動きになるのか**」私なりに考えてみたくなりました(考えるために、少しやってもみたのです)。

するとです。なんか、気持ちいいんですよ。顔を前に突き出して走るものですから、風が顔に当たって、爽快なのです。そして、この感覚=風が気持ちいい=速く走れている→“足が速くなっているかも”と、勘違いをさせてくれるんです。きっと。たぶん、泳ぎも、この感覚だと思うんですね。

確かに理論上、この動きが走りや泳ぎを速くはしないことはご存じの通り。あと、この動き。4年生くらいになると自然となくなるんです。

よって、この動きは、研ぎ澄まされた皮膚感覚をお持ちのちびっこ特有の動きだと結論付けさせていただきます(ということは、実際にやって、この感覚をまだ味わえる私は、ちびっこに優るとも劣らない皮膚感覚の持ち主とすることになります。えっへん)。

人はいつしか風を感じることを忘れ大人になってしまうのか。そんな一抹の寂しさも彷彿させる動きでもありました。



この写真は校長室窓辺の「胡蝶蘭」です。

昨年、前任の校長先生からいただいたもので、今シーズンは2年目となります。

この胡蝶蘭の何がびっくりかといいますと、2年目なのに、こんなに花が咲いたということです。

今までに何度か胡蝶蘭をいただき楽しませていただきましたが、2年目にもこんなに花が咲いたのは今回が初めてでした(^o^)

加えて、お店で売っているように仕立っていないので、なんと破天荒に咲いていることか。

胡蝶蘭が持っている雅さの陰が薄れるほどに、右に左に、上に下にと咲く花。「自由に咲く胡蝶蘭。これもまたよし」と、胡蝶蘭と子どもを重ね合わせて思う私でありました(来年も伸び伸び咲いてほしいなあ)。